



スライドを使って調査結果を報告する白糠町出身の渋谷正信社長

TOPIC 10 渋谷正信さん調査結果を報告

12/11 白糠町漁場可視化調査報告会

白糠地域の漁場可視化調査報告会が社会福祉センターで開催され、漁業関係者など約90人が出席しました。同調査は、潮の流れや海底の状況、水温など、白糠海域の現状を把握するために町が実施したものです。調査した渋谷潜水工業の渋谷正信社長は、海藻が消滅する磯焼け被害に触れ「白糠の海にはコンブが生えており、魚の種類も多く見られたので安心しました。可視化の良いところは、初期段階で症状を見つけ、早めに手を打つことができること」と話していました。

TOPIC 7 寺澤篤司さん 日本善行表彰受賞

12/10 秋季善行表彰（環境美化）伝達式

環境美化に奉仕し、明るく住みよい町づくりに尽力されたとして、上庶路に千本以上の桜を植えた寺澤篤司さんに日本善行会から表彰状が贈られました。寺澤さんは平成7年から桜の苗木を育て始め、平成14年から毎年、桜の植樹活動を行っています。この日は、役場で表彰状とメダルの伝達式が行われました。寺澤さんは「桜が好きで自分のために始めた植樹ですが、長い年月が経ちこうして認められるとやっぱりうれしいです」と受賞を喜んでいました。



表彰状を手にする寺澤さん、棚野町長と日本善行会釧根支部の会員

TOPIC 11 茶路小学校 工藤光稀君優秀賞

12/13 緑化啓発活動作品コンクール表彰式

北海道森と緑の会主催の令和3年度「緑化啓発活動作品」コンクール標語の部で、茶路小学校の工藤光稀君（5年）が優秀賞、對木亜香さん（5年）と松永まなみさん（2年）が奨励賞を受賞しました。この日は同校で伝達式が行われ、釧路総合振興局の小南雅善森林室長から表彰状が授与されました。工藤君は「森を大切にしてほしいという願いを込めて“森と人は 自然を守る パートナー”という標語を考えました。受賞できてうれしいです」と話していました。



写真左から對木さん、工藤君、松永さん



手際よく調理する参加者。ホッキを切っているのは畑野さん

TOPIC 8 ホッキを使ったラタシケブ

12/10 アイヌ料理作りに挑戦

アイヌ料理講座がウレシパチセで開かれ、町民6人がホッキとギョウジャニンニクをあえたアイヌ料理の「ラタシケブ」と「ホッキカレー」を作りました。アイヌ文化保存会の会員3人が講師を務め、参加者は講師から作り方やコツを教わりながら、手際よく調理していました。アイヌ料理に興味があって参加したという畑野満子さんは「みなさんと和気あいあい、とても楽しく作れました。ラタシケブは初めて作りましたが、とてもおいしかったです」と話していました。



実際に選挙で使う投票箱や記載台を使って行われた模擬投票

TOPIC 12 選挙の仕組みやルールを学ぶ

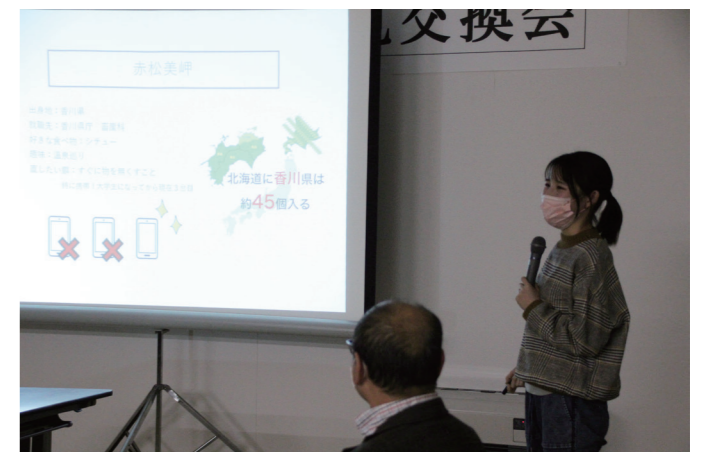
12/14 白糠高校「選挙啓発出前講座」

北海道選挙管理委員会は、政治を身近に感じてほしいと白糠高等学校で同校の1、2年生40人を対象に、選挙啓発出前講座を開きました。講座では投票に参加する意義、選挙運動のルールなどについて道選挙管理委員会の田宮裕貴さんが説明。続いて、生徒による模擬投票が行われました。武内萌花さん（1年）は「自分が投票に行くイメージができました。投票できる年齢になったらきちんと投票したいと思います」と話していました。

TOPIC 9 農業や酪農について考える

12/10 酪農学園大学と意見交換会

白糠町の農業を考える会や釧路丹頂農業協同組合青年部などの農業関係団体と、酪農学園大学（江別市）との意見交換会が酪農研修センターで開かれました。はじめに同大学の学生5人が、これまで自身で取り組んできた研究について一人一人発表。その後、農業関係団体14人と意見を交わしました。大学生の岸田美月さんは「農家さんや町職員、農協の方から質問をいただき、現場で働く人たちの意見の大切さに気づくことができました」と話していました。



酪農学園大学4年生赤松美月さんの研究発表の様子